

一分間速音読の実践

7月より全塾生に対して速音読を授業前後にやらせています。これは齋藤孝先生の「速音読」という本の見開き1ページを、1分以内に読み切ることを目標に私の前で一人一人に音読させているものなのですが、これがどうしてどうして、なかなかの良い成果を上げています。

“全ての教科の土台は国語力である”と開塾以来主張している当塾ですが、その実力アップを目指して指導したいのはやまやまながら、国語のための十分な授業時間をとることができず長年もどかしい気持ちでいました。中学生には毎時間、英語を訳させる際に主語と動詞（日本語で言えば主語と述語）をとらえさせていますので、日本語、英語に関わらず文というものゝ型を理解するという最低限の基礎は次第に身につけさせていくことができるのですが、それ以上の国語の力をつける指導は中3になって受験勉強に入るまではなかなかできない状態でした。

面談の際、私の「幼児期からの親子の会話と小学校に上がってからの音読練習をおろそかにしてはいけません。これが国語力を左右します。音読は、ただ読ませておけばいいというものではなくて、いかに正確に一字一句間違えずに読めるかが大切なので、親が本を一緒に見てあげなければなりません。読点で止まって、読点のないところでは止まらないというところまで守らせます。それが後々文を正確に読み取るという力につながります。」という話を聞かれた方もいらっしゃるかと思います。そうなのです。国語力の基礎を作るには幼い頃から会話をすることや正しい文を聞く(読む)ことなどが大切なのですが、小学校に上がってからはまず音読です。正確な音読練習を繰り返すことによって、見る力、文の意味を理解する力、頭を速く回転させる力が身につけてきます。黙読では正確に読めているのかわかりません。当塾生の場合、テストでも問題を最後まで読まなかったり、または読み間違えたりして不正解となることが非常に多いのですが、これは正確に文を読む習慣がついていない証拠です。また、こういう子を見る力も育っていませんから、文字や数字の書き写し間違いも多くなります。社会や理科の漢字の覚え間違いや数学の計算ミスも出るというものです。“正確に速く読む力”を鍛え、習慣づけるための速音読一分チャレンジです。助詞の一つも読み間違えないよう、私がきっちり見えています。始めて2ヶ月ですが、文末の部分が半分消えるような読みしかできていなかった子が最後まできちんと読めるようになったり、先々の文節を目で追うことができず読むのが遅かった子がすらすらと良いスピードで読めるようになったりと、様々な驚きの結果が出ています。

一日一分、是非お家でも毎日練習して下さい。国語力のみならず脳の訓練にもなりますよ。